

1.学習面の準備

《文具全般》

- ①キャラクターの文具は罪づくり。無地でシンプルな物を選択する。(気を散らさない)
- ②消しゴムはシンプルでよく消える物を選ぶ。(色つき、臭い付きは必要なし)
- ③消しゴムは、すぐ使える形にしたものを持たせる。
- ④多機能筆箱は、単なる遊び道具。必要な機能のみで十分。(落としても音が出ない物)
- ⑤定規は折れにくいものを選ぶ。(透けて見える透明な物がよい)
- ⑥鉛筆キャップは必要なし。学校から指示された以外の余分な文具は買わない。
- ⑦赤青鉛筆以外は、丸い鉛筆は買わない。(丸い鉛筆は転がってしまう。)
- ⑧スティックのりは、透明なゼリー状のものより白いものの方がよい(塗りやすい)
- ⑨ハサミは、本人の使い慣れたものを、あらかじめ購入し家で練習しておく。
- ⑩鉛筆削りは、自宅で自分でできるようにしておく。
- ⑪紛失しそうな文具の予備をワンセット担任に預けておくことも一つの方法
- ⑫入れる場所をシール等であらかじめ決めておく、入学前から準備して練習させる。

《算数》

- ①数を正しく数える時は、○でかこうなど、印をつける習慣を身につけておく。
- ②10までの数字を正しく書く。(「5の書き順」「0の読み方」「0の書き方」)
- ③「10ごとにまとめるとよい」→とても大切な考え方
- ④10のまとまりを○で囲えるようにしておく。
- ⑤「前から○番目」「後ろから○人」普段の生活の中で経験をさせる。
- ⑥「いくつといくつ」少ない数から、手で隠して遊ぶ(目に見えない数を考える)
- ⑦たしざん(1)ひきざん(1)指や具体物でおもいきり経験させる。
- ⑧時計は、針の時計を準備して、日頃から慣れさせておく。(何時・何時半・何時何分)
- ⑨パズルや積み木遊びをたくさん体験させる。(三角と三角で□になるなど・・・)
- ⑩文章問題では、指でおさえながら、丁寧に問題を読む習慣をつける。答え方も注意(3点セットで間違いは激減)□いくつでしょう。□どちらがどれだけ・・・
- ⑪「長い・短い」「大きい・小さい」「多い・少ない」などの用語になれさせておく。
- ⑫サイコロを使った「双六あそび」やいろいろな「グラフ」に親しませておく。

《国語》

- ①じぶんの名前は書けるようにしておきたい
- ②絵本でも図鑑でもよいので本に親しむ習慣を身につけておく(読み聞かせも大切)
※特に昔話をたくさん読み聞かせさせておいてください。
- ③話集を増やす「しりとり遊び」
- ④ひらがなの書き順(も・よ・む)
- ⑤カタカナの形と書き順(ツとシ・ンとソ・クとワ)
- ⑥正しい言い方①
「おとうさん」「おとうと」「いもうと」「おねえさん」「こおり」「ぐらうんど」
「おうさま」「れいぞうこ」「ほうちょう」「おおかみ」「せいかつ」「たいいく」
- ⑦「一~十の読み方」
□七は、「なな」か「しち」と読む。「ひち」は×
□十は、「とお」とも読むが、「とう」は×
- ⑧一日(ついたち)の読み方 十日(とおか) 二十日(はつか) 三十日(みそか)
- ⑨はみだしてしまうなら、大きなマスで書かせてみる。
- ⑩鉛筆正しい持ち方は、補助具で解決。(悪い持ち方を習慣化しない。)
- ⑪本の持ち方(イスに座って読むとき・立って読むとき)
- ⑫横書きは数字、縦書きは漢字
- ⑬読点「、」や句点「。」の書く場所は右下。
- ⑭「 」の書く場所や、行の最後に読点「、」がきたときの書き方。

《その他学習関係全般》

- ①色のぬりかた(周りをぬってから中をぬるとはみ出ない)
- ②消しゴムの消し方
- ③定規の線の引き方
- ④プリント等もらったら、まずは、日にちと名前の記入
- ⑤教科書や持ち物の準備は、使う順番にカバンに入れる。
- ⑥名前はすべてひらがなで記名。漢字は使わない。(他の子が配るときにも因る)
- ⑦いろいろな虫や生き物、植物、土、どろ、粘土等を触る経験をさせる。
- ⑧なわとび、てつぼう、一輪車、スイミング等様々な運動も経験させる。
- ⑨昔遊びも行います。剣玉、コマ回し、お手玉、竹馬、あや取り等を経験させる。
- ⑩手を叩きながら歌う等、音楽に親しませたい。アニメソングでも OK カラオケも OK
- ⑪えんぴつの持ち方は、矯正補助具を使うと良い。
- ⑫新しい本をもらったら、広げた後、上から押して折り目を付けて閉じにくくする。
- ⑬基本的に机の上で学習する時の文具や本の置き場所を決めておく。

2.生活面の準備

- ①まずは、健康。「すっきりランチの生活習慣」朝起きてからのパターンを同じにする。
 - 夜8時を過ぎたらなにも食べない →
 - 朝ご飯前に10分動く → 胃結腸反射によって排便がスムーズに
 - 朝ご飯は20分かけて食べる →
- ②通学路は入学前に練習して歩く。(2年時以降も変更しないように学校に確認)
- ③トイレへの対応(洋式?和式?)足首までズボンを下げなくてもできるようにしておく。
- ④食事の指導(食べるときの姿勢・箸の使い方・三角食べ・嫌いな食べ物への対応)
- ⑤掃除の指導(ぞうきんのしぼり方、ほし方、ほうきの持ち方、はき方)
- ⑥自分の机の整理整頓(どこに何をおくか決めておく)
- ⑦授業(カバン)の準備の仕方、一時間目から準に準備する。
- ⑧提出物の出し方、学校のかごの並んでいる順番に一つずつ入れていく。ない場合は、「ありません」や「わすれました」を言えるようにしておく。
 - 学校から聞けるように準備しておく。→家でも練習 ※専用の箱が効果的
- ⑨靴や服、靴下等は自分で脱着ができるものにしておく。(特に靴選びは大切)
 - ※かかとをそろえる。
- ⑩ハンカチやマスクは、予備を必ずランドセルの中に入れておくようにする。
 - 担任にもしらせておく
- ⑪あいさつの仕方・(いろいろな挨拶がある 大きい声のあいさつだけがよいわけではない)
- ⑫朝は自分で起きる。
- ⑬歯磨き
- ⑭正しい手の洗い方
- ⑮ボタンやピン(場合によっては、紐の結び方)
- ⑯できることからお手伝い。(家庭内での位置づけ)
- ⑰仲良しの友達をつくり、学校の情報が入るようにしておく。
 - (ホームパーティーの開催を通して、積極的に友達作りを行う)
- ⑱水筒は、コップ式の方がよい。
- ⑲手紙のたたみ方、角と角をあわせて綺麗に折る練習(折り紙でできる。)
- ⑳当たり前のマナー(くしゃみは口を押さえる・きたない・ひわいな言葉は使わない等)
- ㉑交通安全(横断歩道の渡り方等)
- ㉒お金を払って物を買うこと。
- ㉓呼ばれたら、しっかりと「はい」の返事ができる。
- ㉔正しい手の洗い方(できたら体の洗い方へできることを発展させていく。)
- ㉕正しい歯磨きの仕方(学校でも歯磨きをするところが増えていきます。)
- ㉖うがいができない子が増えています。ご家庭で練習をしておいてください。
- ㉗カバンにキーホルダー等はつけない。お守りもカバンの中にした方がよい。
- ㉘ご褒美に安易にお金や物を渡さない。
 - 《よい例》頑張ったらあなたの好きなメニューの夕ご飯を手作りで作ってあげるよ。
- ㉙親の姿を子どもたちは見ている。まずは、親が祖父母にしているところを見せるとよい。
- ㉚百匹の魚を与えるのではなく、一匹の魚の釣り方を教えるつもりで、学び方を教える。
- ㉛ほめ方は、「位置づけ」「価値付け」「方向づけ」
 - ※特に位置づけが何よりも大切(家でのお手伝いをできるようにしておきたい。)
- ㉜ただできたからよいのではない。「般化」→どこでもできるようにすることが大切

3.学校との連携

- ①入学式の練習(お願いすれば事前にできます。)
- ②入学式後の早期の個人懇談(学校によっては入学式前・に実現することも・・・)
- ③文援計画・今後の進路(通常に戻すか。中学校卒業後は、就労は・・・)
- ④どのような力を身につけさせるのか。(S-M社会生活能力検査の130項目の習得)
- ⑤学校への要望をどうするか。(施設関係の要望は早急に行うこと)
- ⑥シールを貼ってほめる経験をしておく。
- ⑦頑張る内容をしぼって、学校と一緒に取り組む。
- ⑧絵カードなどを使う場合も学校と同じ物を使う。
- ⑨連絡帳だけではなく、携帯等で緊急の連絡がとれるかどうか確認しておく。
- ⑩小中との連携、今後の進路について事前に考えておく。
- ⑪クラス編成等の要望もある程度可能(そのコツは・・・)
- ⑫机の場所は非常に重要。事前のお願いで場所の指定が可能。

4.病院や福祉施設等、その他各種機関との連携

- ①心理検査・発達検査を受診し、お子さんの実態を科学的かつ正確に担保する。
- ②お子さんを預ける場合、学童保育にするのか、放課後等デイサービスを利用するか。
- ③お子さんの教育・進路相談について専門機関と継続的につなげていく場の確保。
 - (医療機関との連携 児童発達支援センター等と小学校のつなぎ)
- ④障害者手帳をもらうかどうか。・・・将来を考えて決断は早めに。
- ⑤小学校で使える物は、できるだけ園のうちから使用させて慣れさせておく。
- ⑥園で信頼できる先生と出会った場合は、個人的なお付き合いを続けるとよい。